

木材需給動向について (東北地区)

令和2年12月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 直近の価格推移（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（東北地区）

(2) 製品価格の推移・動向

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・東北地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

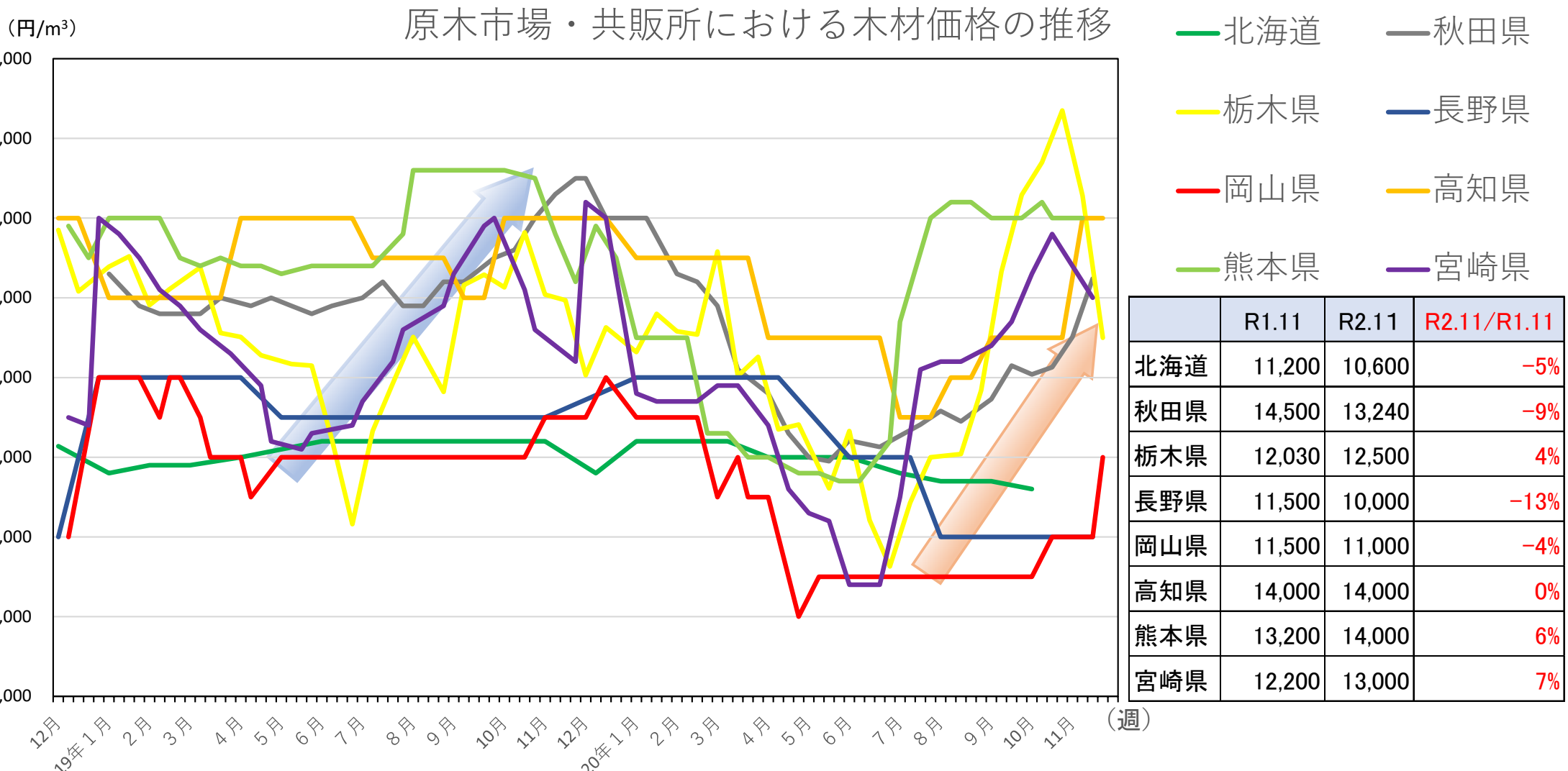
(1) 住宅着工戸数の推移

(2) 東北地区の新設住宅着工

1 価格の動向 (1) 直近の価格推移 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ 例年秋から12月頃まで原木価格は上昇する傾向にあるが、本年は高騰する場面もあるものの、**例年並みとならない地域が見られる。**
- ・ 本年11月のスギ原木価格は、**対前年比13%減~7%増。**

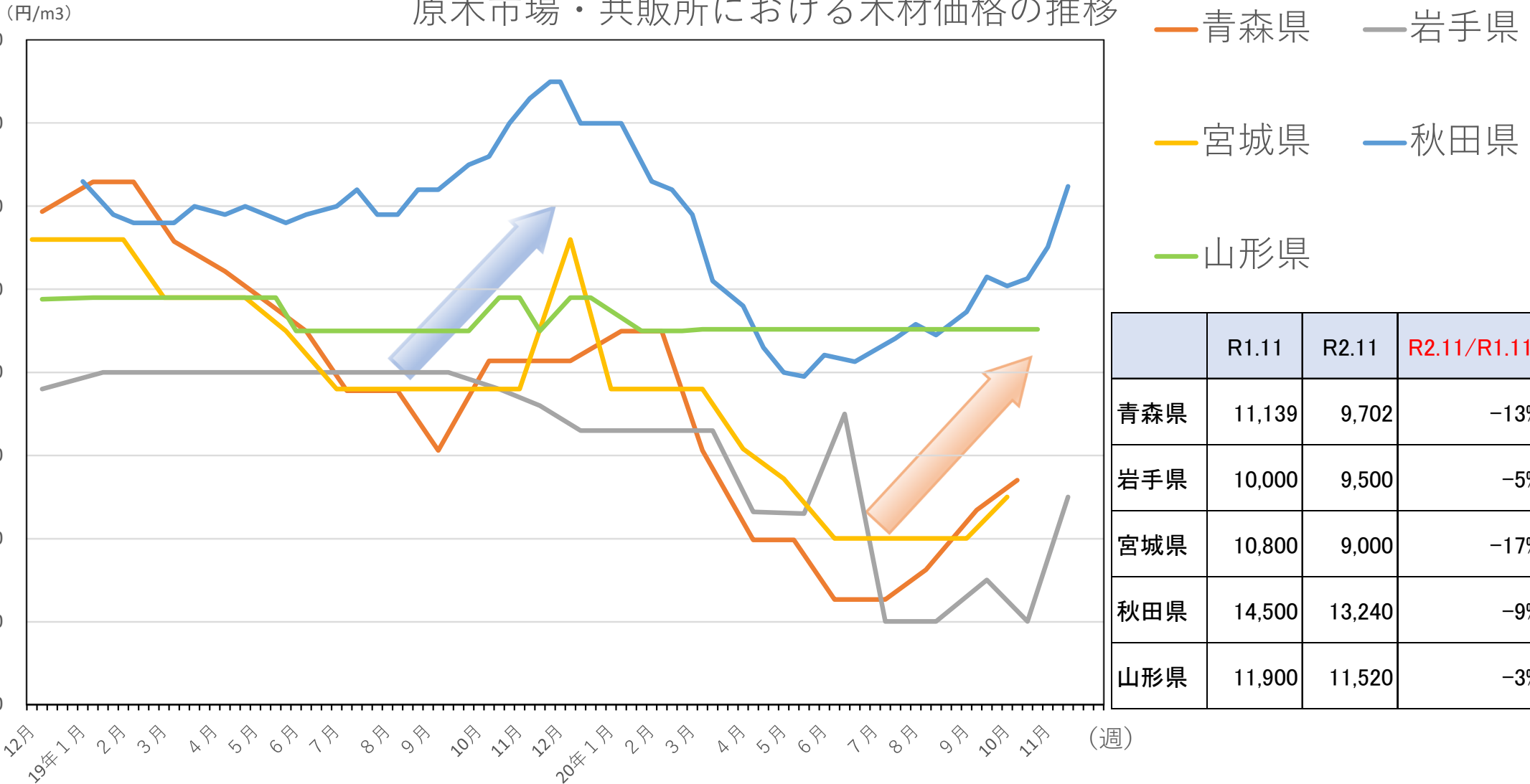


注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。
 注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
 資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ(東北地区) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ 例年秋から12月頃まで原木価格は上昇する傾向にあるが、例年並みとはなっていない。
- ・ 本年10月のスギ原木価格は、対前年比3~17%の下落。

原木市場・共販所における木材価格の推移



注1：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格の推移・動向

- 製品価格は原木価格と異なり季節変動はないが、本年は価格の下落が見られる。ただし、10月以降は横ばいの傾向で、スギ柱角・乾燥材の価格については地域によって回復が見られる。

○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
首都圏	54,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	54,000	54,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	60,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
大阪	55,000	55,000	54,000	54,000	52,000	50,000	50,000	50,000	50,000
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000
九州	52,000	50,000	50,000	48,000	48,000	47,000	46,000	46,000	48,000

○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
首都圏	66,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
大阪	64,000	64,000	63,000	63,000	61,000	59,000	59,000	59,000	59,000
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
九州	62,000	62,000	61,000	61,000	61,000	60,000	60,000	60,000	60,000

※九州のみ120×120×3000mm

○ スギ集成管柱 105×105×3000mm [円/本]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750
広島	1,900	1,880	1,880	1,880	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800

○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm [円/枚]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	950	950	950	950
首都圏	1,050	1,030	1,030	1,010	980	950	950	940	940
名古屋	1,050	1,020	1,020	1,000	960	930	930	930	930
大阪	1,050	1,010	1,000	990	950	920	900	900	900
広島	1,070	1,050	1,030	1,030	1,000	950	930	930	930
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

- 横ばい
- ↓ 下落
- ↑ 上昇

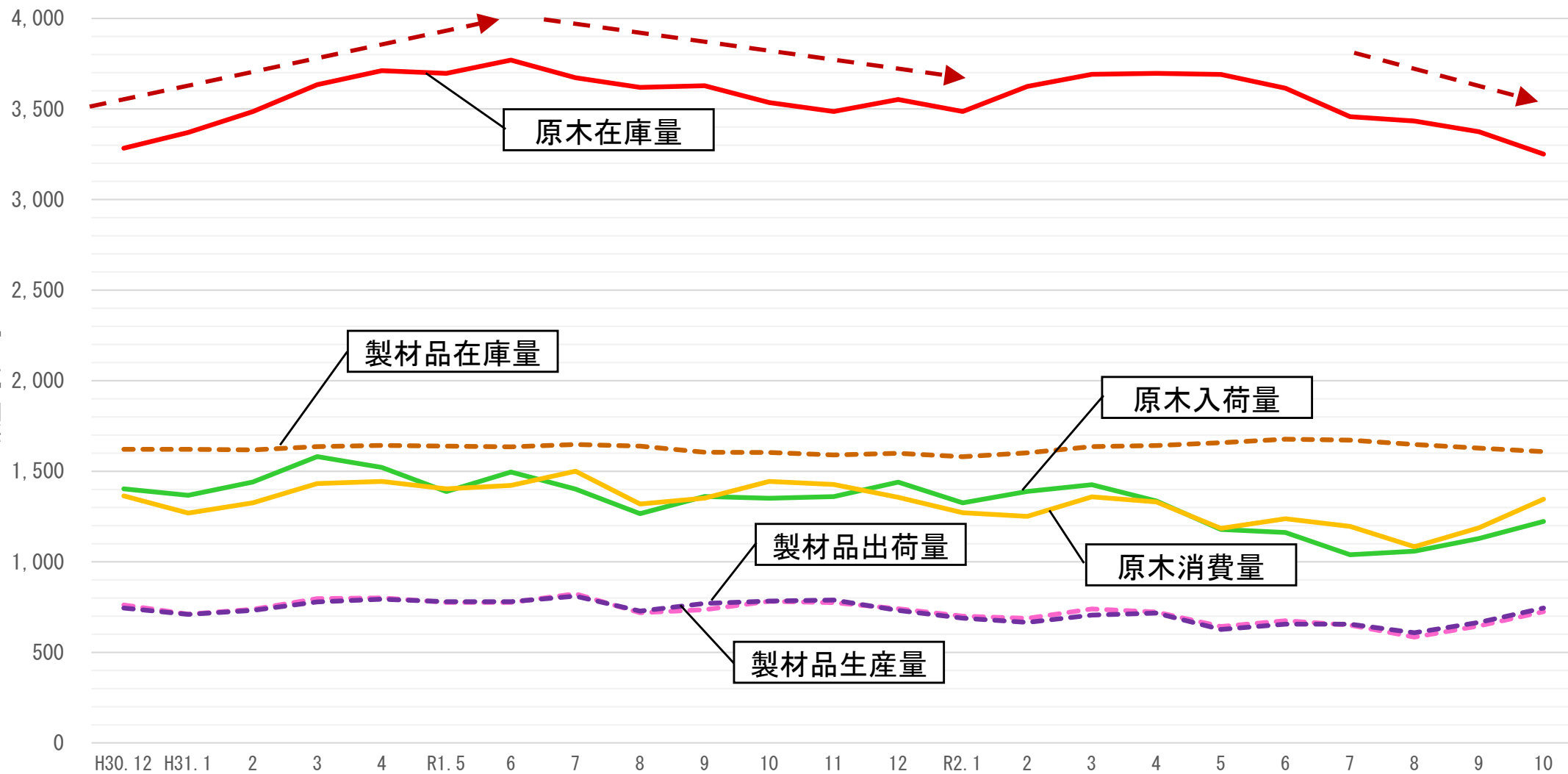
出典：日刊木材新聞

2 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

「製材統計」によると、

- ・製材品の生産量、出荷量は昨年は年間を通じて大きな変化は無かった。今年は平均的に対前年比10%~15%の減で推移していたが、9月から回復傾向。
- ・原木の入荷量、消費量は2、3ヶ月単位で、増減を繰り返す傾向。今年は、4月から8月まで減少傾向だったが、9月から回復傾向。
- ・原木在庫量は半年単位で増減を繰り返す傾向だが、今年は減少幅が大きい。

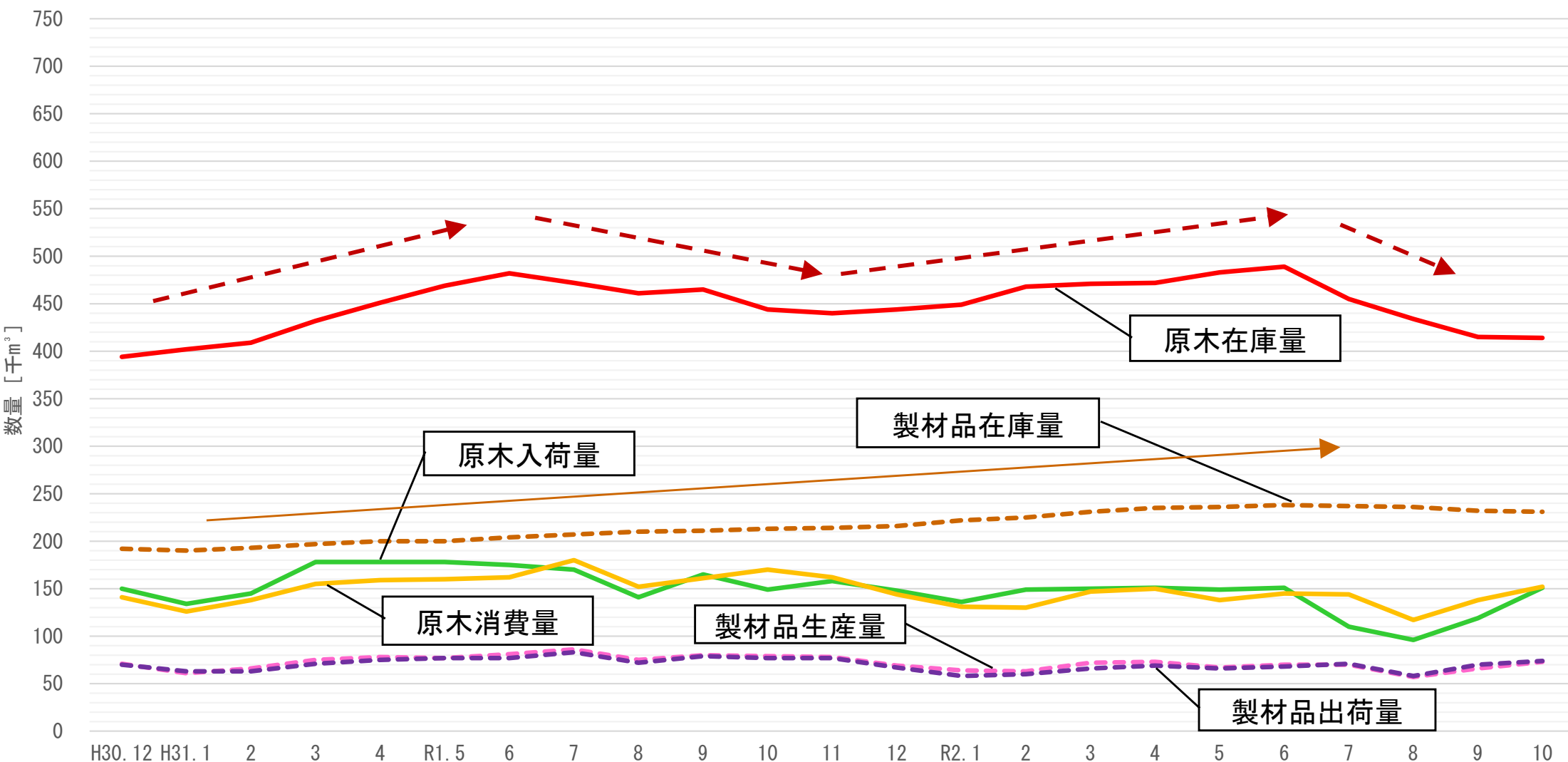


資料：農林水産省「製材統計」

(1) 製材 (東北地区)

「製材統計」によると、東北地区では、

- ・製材品の生産量、出荷量は令和元年、概ね8万m³/月で推移していたが、令和2年は8月を底としつつ概ね7万m³/月で推移。
- ・原木の在庫量は7月以降減少傾向、入荷量も7月から減少傾向だったが、9月以降増加に転じた。

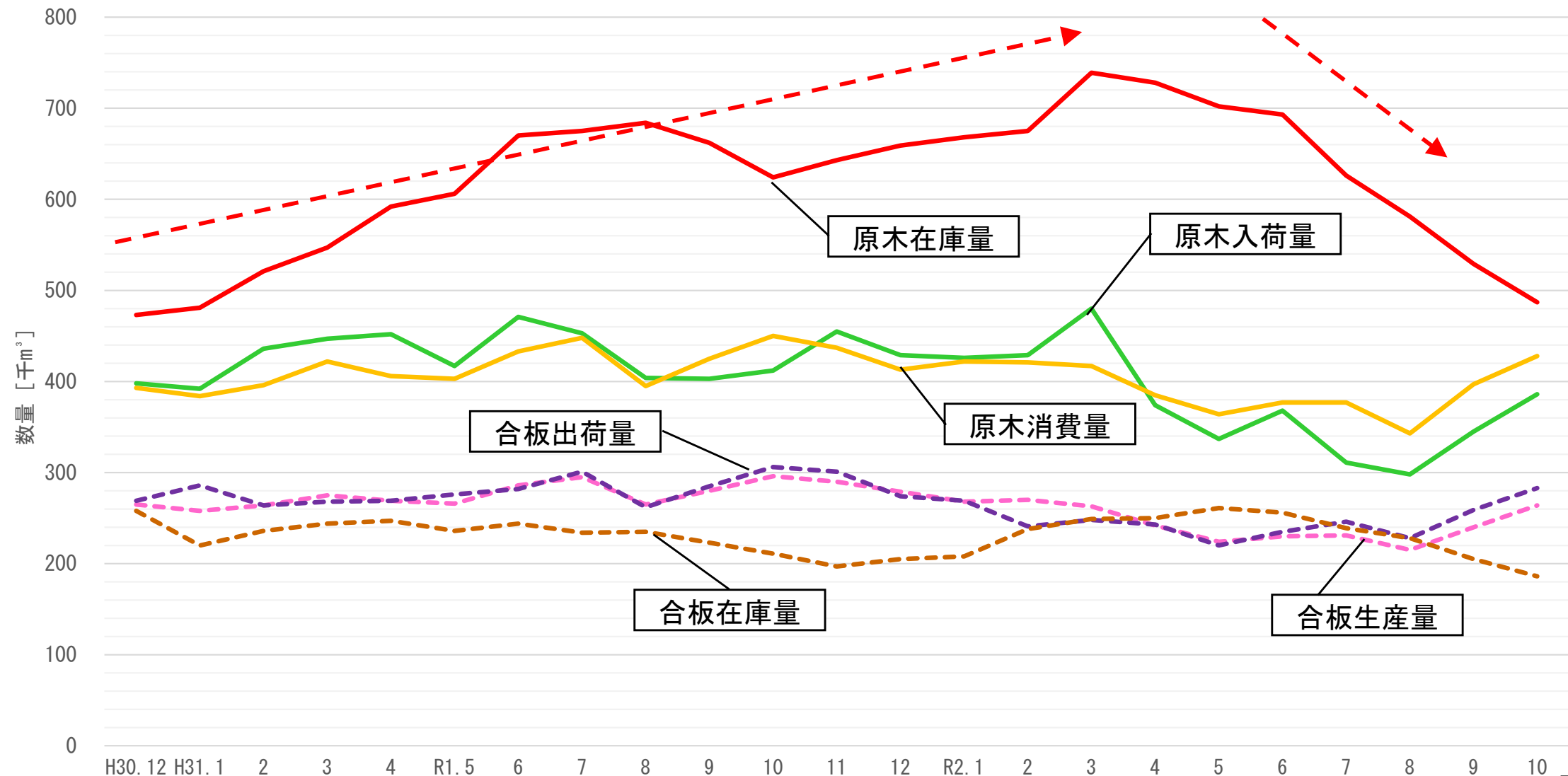


資料：農林水産省「製材統計」

(2) 合板 (全国)

「合板統計」によると、

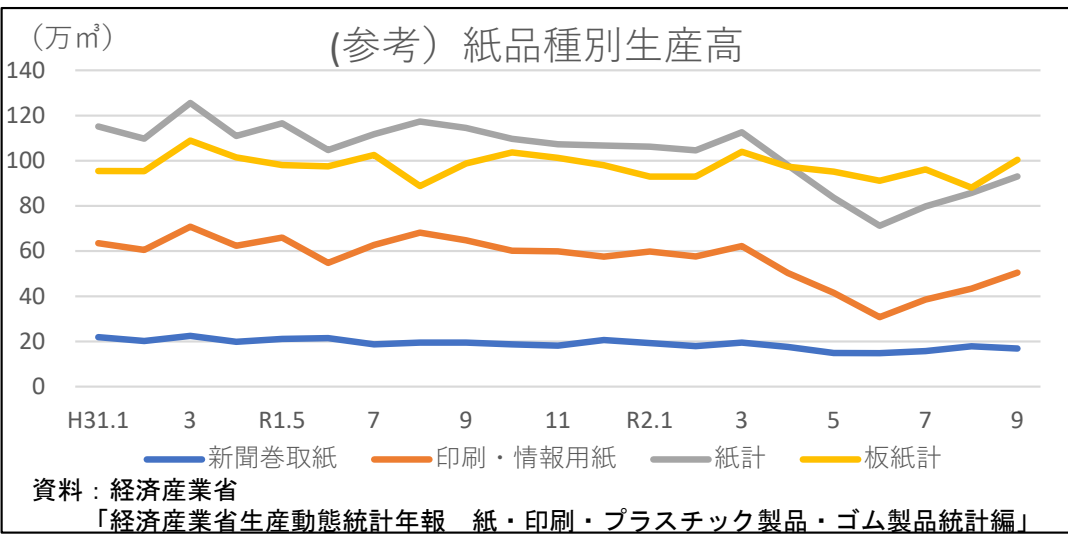
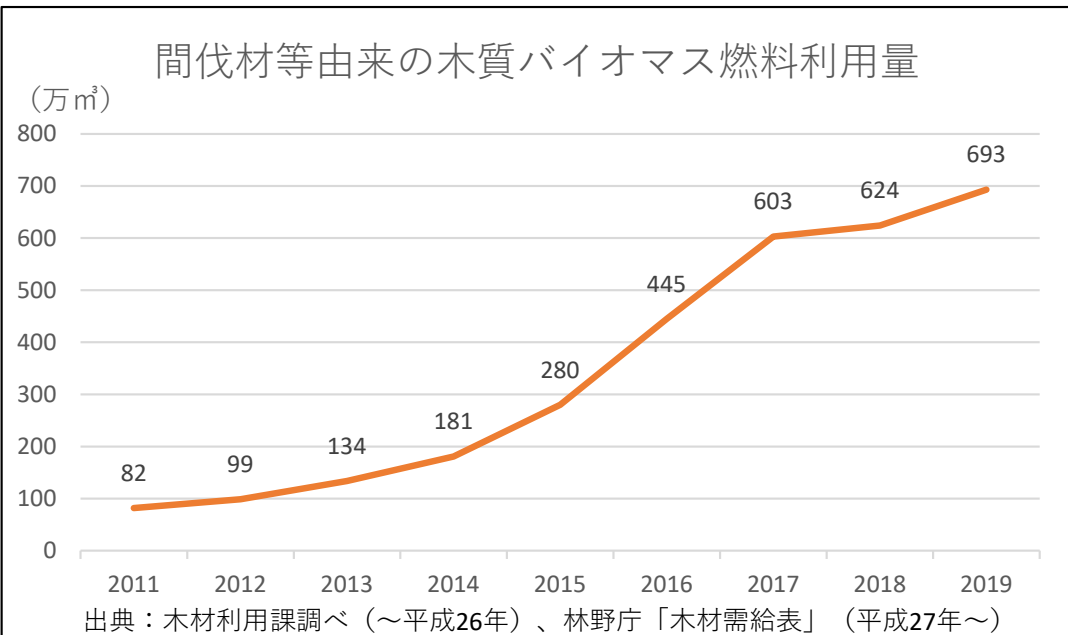
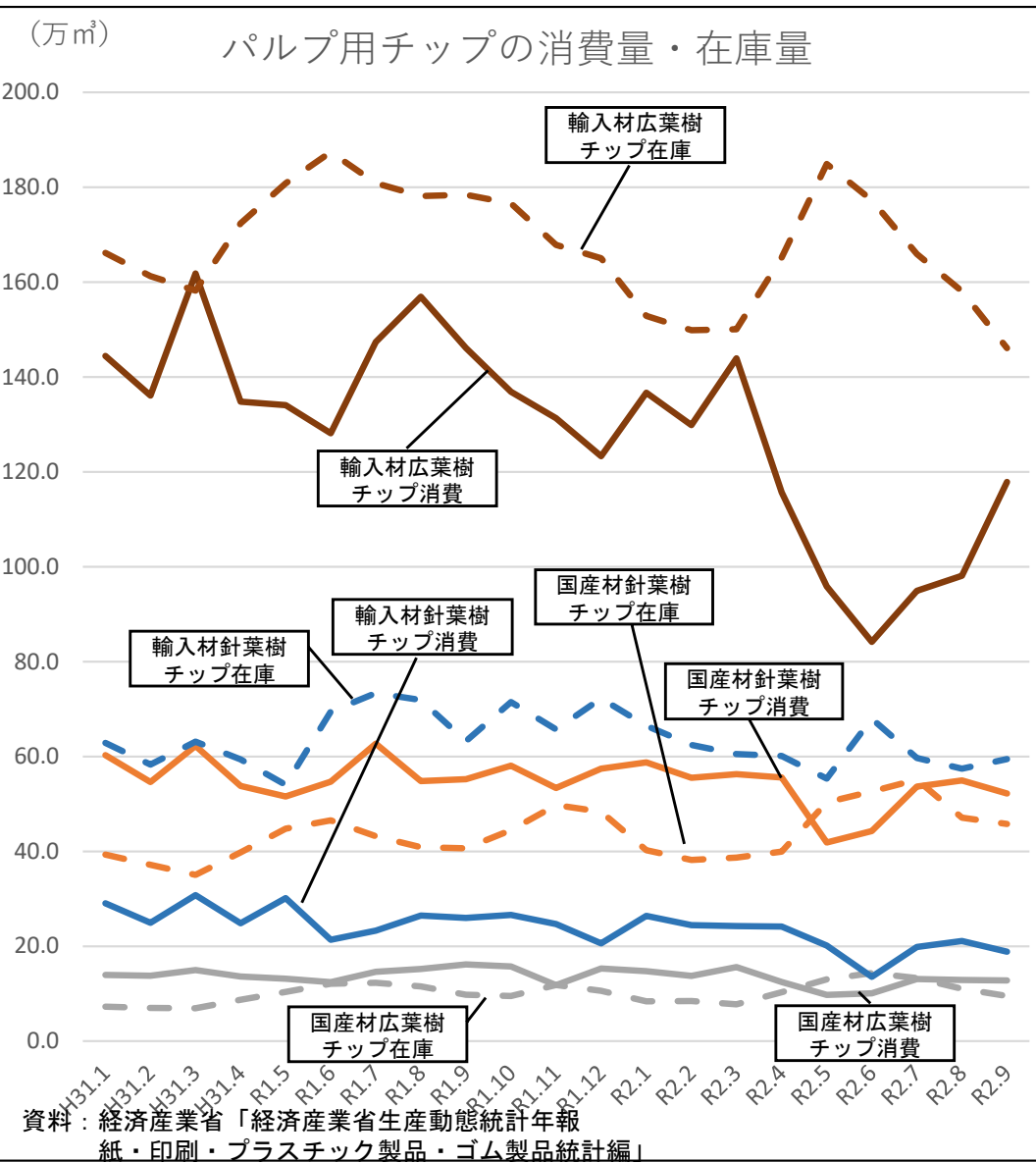
- ・ **合板の生産量、出荷量**は昨年10月以降、減少傾向にあったが、5月以降横ばい、9月から増加に転じた。
- ・ **製品在庫量**は今年2月から増加傾向にあったが、6月以降、減少傾向が続いている。
- ・ **原木の入荷量、消費量**は、4月以降、減少傾向で推移したが、9月以降は増加に転じた。
- ・ **原木の在庫量**は増減を繰り返しつつ長期的に増加していたが、4月以降、減少傾向が続いている。



資料：農林水産省「合板統計」

(3) チップ (全国)

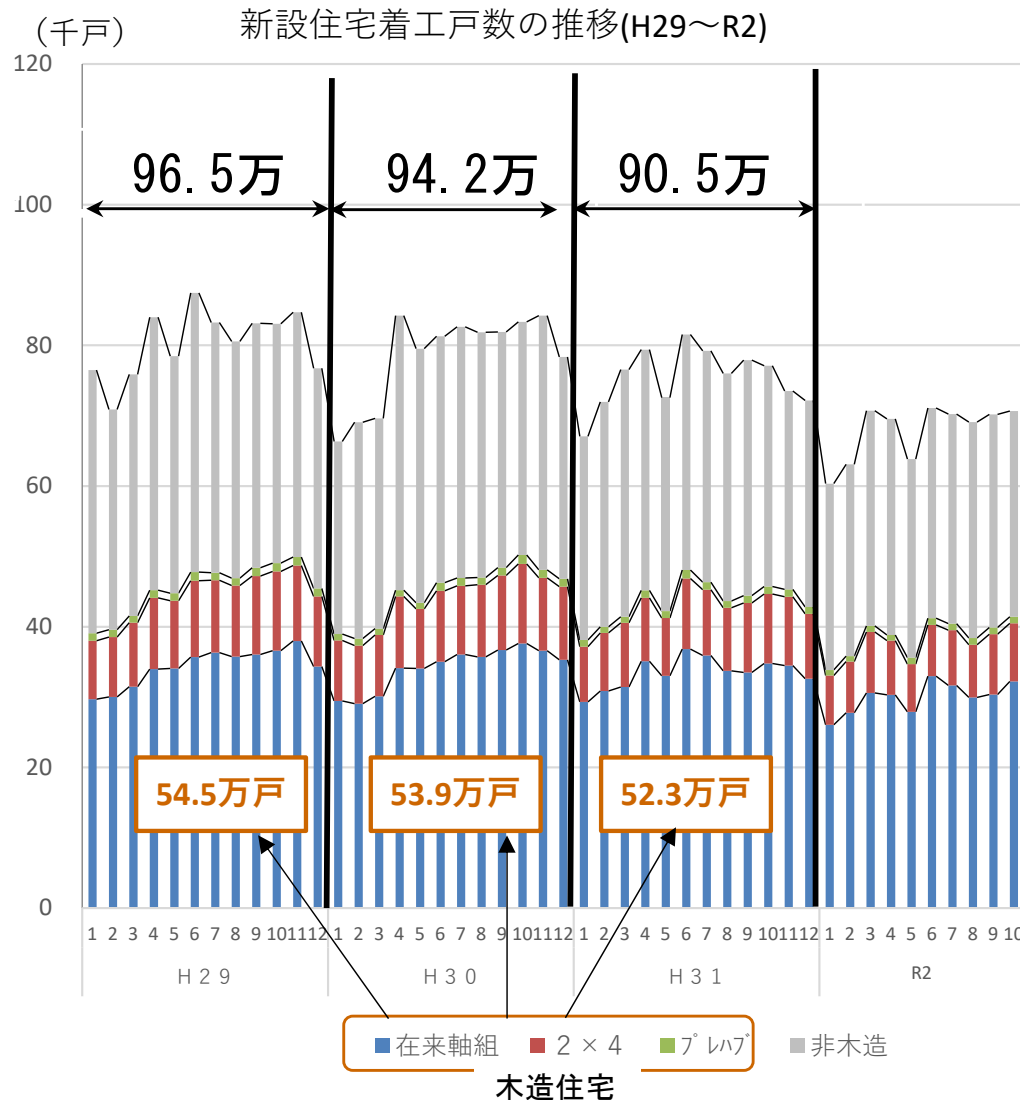
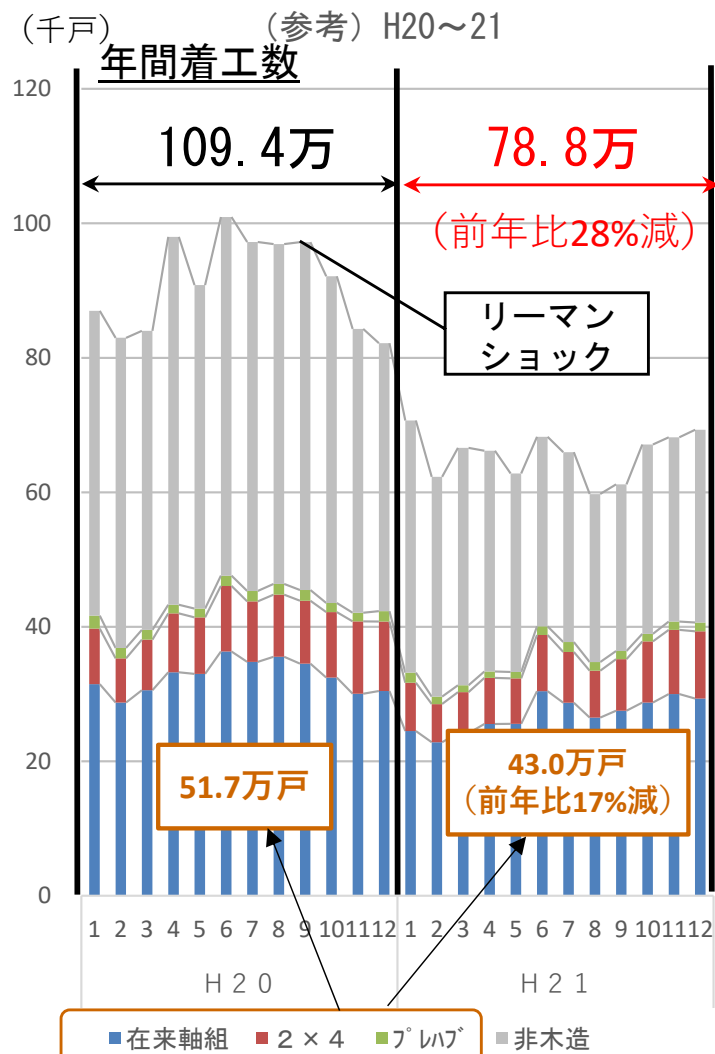
- ・ **パルプ用チップの消費**について、**輸入広葉樹チップ**が今年4月から**激減したが**、**7月から回復傾向**。**国産針葉樹チップ**も今年5月に大きく**減少したが**、**6月から回復傾向**。
- ・ パルプ用チップの消費量は**印刷・情報用紙の生産と連動している**と考えられる。
- ・ **木質バイオマス発電向け燃料**については、**増加傾向が続いている**。



3 住宅着工数の動向

(1) 住宅着工戸数の推移 (平成20年1月～令和2年10月)

- ・ 昨年度の新設住宅着工戸数は、90.5万戸。そのうち、木造住宅は52.3万戸（57.8%）。
- ・ 令和2年度1～10月の木造住宅着工戸数は、38.6万戸（前年比11.4%減）。
- ・ 緊急事態宣言の発令により、大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少した影響が懸念されたが、着工戸数全体としては目立った落ち込みは見られない状況。



令和2年1～10月期
住宅着工戸数

総計 67.9万戸
(前年比10.6%減)

非木造 29.3万戸
(前年比9.6%減)

木質プレハブ 0.9万戸
(前年比11.2%減)

2×4 7.7万戸
(前年比15.2%減)

在来木造 30.0万戸
(前年比10.4%減)

木造38.6万戸
(前年比11.4%減)

(2) 東北地区の新設住宅着工（平成31年1月～令和2年10月）

- ・東北地区の**新設住宅着工戸数**について、今年1～10月期の昨年同期の実績を比較すると、全体として**18%減**と、減少幅が全国平均よりも大きくなっている。
- ・その中で、**非木造に比べ木造（12%減）**の減少幅が小さくなっている。

新設住宅着工戸数（東北）

